

## 平成 25 年度第 9 回青森市子ども会議開催概要

- 1 日時** 平成 25 年 10 月 6 日（日） 午前：9 時 15 分～12 時  
午後：13 時～16 時
- 2 場所** 青森市総合福祉センター2 階 大集会室
- 3 出席者** 平成 25 年度青森市子ども委員 19 名（欠席者 11 名）  
平成 25 年度青森市子どもサポーター4 名  
青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会委員 5 名  
事務局 7 名
- 4 活動内容** 午前：児童福祉専門分科会との合同会議  
(子どもの権利の日イベントについての意見交換)  
午後：身の回りの興味のあることをテーマとした活動のまとめ
- 5 開催概要**

第 9 回の子ども会議は、子どもの権利条例で定めている「青森市子どもの権利の日」（毎年 11 月 20 日）にふさわしい活動において、子どもたちがやりたいと考えていることなどについて、昨年度、条例づくりにご尽力いただいた「青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会」の皆さんからご意見やアドバイスをうかがうことを目的に、児童福祉専門分科会との合同会議として開催しました。

合同会議が開催される 1 時間ほど前に、子どもたちは会場に集合して、合同会議に向けた準備を行いました。

子どもたちに事前をお願いをしていた、「身の回りの興味のあることをテーマとした活動」の現時点での大まかなまとめと、子どもの権利の日イベントでやりたいと考えていることの現時点での大まかな案を参考にしながら、1 時間という限られた時間で、合同会議で発表できるように、グループごとに話し合いをして整理しました。

そして、今年度はじめての合同会議が始まりました。

まず、初顔合わせということで、皆さんから自己紹介をしていただきました。

先に、児童福祉専門分科会委員の皆さんに自己紹介していただき、続いて、子どもたちとサポーターも交えて、順番に自己紹介をしました。



## 児童福祉専門分科会委員の自己紹介

- 大学で教員養成をしています。来年度は、(子ども委員の) 皆さんも勉強したと思いますが、「子どもの権利条約」を日本が批准して20周年にあたりますが、そこからできた「子どもの権利条例」についてイベントを行うということで期待しています。
- 保育園で園長をしています。さきほど、日本が「子どもの権利条約」を批准して来年で20周年と言っていました。私の子ども会ではそれより1年前、平成5年に条約を批准していました。当時の小学校5年生以上の子どもたちに「日本でまだ批准していないけれど、子ども会で批准してもいい？」って聞いたら、「いいよ。」と言ってくれたので批准しました。なので、私の子ども会としては、実は今年で20周年になります。今でも大人の遊びは苦手ですが、子どもの遊びは大好きです。よろしくお願いします。
- 中学校で校長をしています。今回の子ども委員には、私の中学校から1人参加をしています。また、高校生の子どもの委員1人が、中学校時代の生徒でした。このように、中学生、高校生、そしてサポーターの方が、本当に青森市のことについて話し合っ、企画して、そして実行していく、これが将来の青森市につながると 생각합니다。皆さん、頑張ってください。
- 昔、県で児童福祉を長年やっていました。私は教育学部を卒業しているので、教員免許を持っています。県で働いているとき、ずっと、1度は先生をやってみたくとうずうずしていました。そうしたら、退職1年前に大学から声がかかりまして、長々と15年、74歳まで先生をしました。あと、私は語学が好きで、前回、交流グループの皆さんと市内のALTとの交流会に参加させてもらいました。ちょっと前に街中でそのALTに会ったときに話を聞いたら、とても楽しかったと言っていました。私は皆さんからいろいろなアイデアとかご意見をいただいて、あと若さももらいながら務めていきたいと思っています。よろしくお願いします。
- 青森市内で弁護士をしています。弁護士会という組織の中で、私は子どもの権利に関する委員会に所属していて、その関係で児童福祉専門分科会の委員を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いします。



## 子ども委員・子どもサポーターの自己紹介

### <思いやりグループ>

- ・この子ども会議に携わって10年になる。今回は「思いやり」のグループに参加していて、いろいろ新しいことを学ばせてもらっていて、とても充実している。ここ2、3年で子ども会議の活動が幅広くなってきていると思うので、とても期待している。
- ・保育園の訪問などをしてきて、子どもたちにも思いやりの気持ちがあることが分かったので、これからその気持ちを広めていけるように頑張りたい。
- ・子どもの権利についてはまったく知らなかったが、学んでいくうちに視野が広がったり、思いやりの活動を通して、自分の考え方が少しずつ変わってきているので、それをグループ活動などに貢献できればと思う。
- ・子ども会議に参加して、初めて子どもの権利に触れてみて、聞いたことはあっても内容を知らない市民がたくさんいると思うので、イベントなどで皆さんに知ってもらえればと思う。

### <街グループ>

- ・体育施設や商店街に実際に取材に行って、今の青森市の実態がわかって、これから自分のできること、自分の得意分野で頑張っていきたい。
- ・青森市の現状というものをいろいろな人に聞いて、知りながら、中学生なりの視点でできることをやっていきたい。
- ・私は夏休み中にやった取材に行けなかったなので、イベントに向けて貢献できるように頑張りたい。
- ・子ども会議に参加して、青森市のことについて、たくさん知ることができた。イベントでは、たくさんの人に条例のことや、今の青森市のことなどを知ってもらうように頑張りたい。
- ・いろいろな人の話を聞くことで、自分の住んでいる街に対する愛着が出てきたので、これからも自分の街「青森」を大切にしていきたい。
- ・「街」をテーマとした活動を通して、いろいろ青森市のことがわかってきたので、イベントでも頑張っていきたい。
- ・子ども会議は今年で2年目になる。昨年、子ども会議に参加してとてもためになったので、今年も参加した。この子ども会議の活動を将来に役立てていきたい。



## <環境グループ>

- ・去年から子ども会議に参加している。最近、「うどん県」や「おんせん県」など、県をアピールする活動がたくさんあるなど感じている。自分自身、青森県が大好きで、高校に入ってから、県外の方とか外国の方とかと話す機会があって、そこでやはり青森は素晴らしいと感じた。将来は、ここで学んだことを生かして、青森のために働いて、青森で骨をうめたい。
- ・ゴミ拾いなどをして、青森の環境の実態を知ることができたので、より多くの人に実態を知ってもらえればと思う。
- ・学校で不登校の生徒がいるなど、子どもの権利が侵害されていると感じているところがある。子ども委員として活動していく中でも、子どもの権利というものを学んでいけて良かったと思う。子どもが楽しく生活できるために、今回「環境」というテーマで活動してきた。イベントではこの「環境」について、子どもたちも自分たちも学んでいけたらと思う。
- ・大学生として、昨年からサポーターをやっている。青森の環境の良さや、ゴミ問題を解決することによって、さらに青森が良い環境になるのではと考えることができた。それを発見してくれた子どもたちのパワーの発表内容を楽しみにしている。



にも影響を受けている。イベントで

## <交流グループ>

- ・今年で子ども会議は4年目になるが、1年ごとに子どもの権利に関すること、青森市に関する知識や視野が広まってきていて、すごくやりがいを感じている。また、外国人との交流会でさらにそれが深まったので、イベントではそういう視点を生かして成功させたい。
- ・この前の外国人との交流会で、外国と日本の文化の違いについてたくさん学んで、楽しかったので、それをイベントでも役立てていきたい。
- ・今年で4年目になるが、毎年違う人たちが参加して活動しているので、毎回違う世界が見えて、自分の考え方も広がる経験ができていると思う。まだ権利について知らない人がたくさんいると思うので、できれば、青森の人がみんな知ることができるような活動ができればと思う。
- ・私も今回で4年目になる。もともと、外国の方との交流や、日本以外の文化に興味があったので、外国人との交流会は、企画や司会進行で楽しくやらせていただいた。イベントに向けては、子どもの権利を知ってもらうための作品づくりで頑張りたい。



・私は、大人ではなく子どもが青森市を動かせるというところに魅力を感じて、子ども会議に参加した。また、英語が好きなので、外国人との交流会を通じて、さらに英語の勉強を頑張ろうと思った。私も子どもの権利については知らなかったので、イベントではいろんな人に興味を持ってもらうだけでもいいので、どんどん広まっていけばいいと思う。

・私は大学生で今年から参加させていただいている。子どもたちから青森市についてどう思っているか、また、どう変えていってほしいのかを聞きたくて、サポーターに応募した。活動の中では、交流の機会を増やしてほしいという意見を聞くことができ良かったと思う。



続いて、今年度の子ども会議のこれまでの活動内容を事務局から説明したあと、今回の合同会議の案件である「子どもの権利の日イベントについての意見交換」を行いました。

まずは、夏休み期間中に子どもたちが活動してきた“興味テーマ”について、グループごとに、

①活動テーマとして選んだ理由

②これまでの活動内容

③イベント時に発表しようと考えている現時点での提案内容

を説明してもらい、それに対し、児童福祉専門分科会の委員の皆さんからご意見・アドバイスをいただきました。

### 交流グループの説明

①活動テーマとして選んだ理由

外国人との交流に興味を持ったこと、人と接することが好きなこと、自分が今まで知らなかったことを学べることなどが主な理由である。

②これまでの活動内容

外国人との交流会を行うため、企画運営をすべて自分たちで行った。交流会では、アイスブレイクとしてぬり絵やゲームをしたり、ねぶたを通じての青森市のプレゼン、お互いの文化を知るための質問コーナーなどを行った。



③現時点での提案内容

- ・子どもの見聞を広めていくことを目的に、市主催のさまざまなイベントに「交流会」を組み込んでほしい。
- ・子ども自身が興味を持つ職業の人との交流会を開催できるようにしてほしい。
- ・日本と外国との文化の違いについての発表会ができる機会がほしい。

### 交流グループに対するご意見・アドバイス

- ・交流にはいろいろな目的があると思います。また、交流をするときには、自分の文化にも誇りを持たないといけないと思います。外国人との交流でねぶたを入れたことはとても良かったと思います。交流をするときの要点を押さえて、『日本の伝統的な思いやりの心』(the heart of traditional Japanese hospitality)を大事にして、これから進めていけばいいと思います。
- ・私は耳の聞こえない人と友達になりました。交流をするということは、もしかすると、あつていい違いに気がつくというか、触れ合う中で、しっかりわかっていない自分に気づく機会になるのかなと思いました。だから、いろんな人たち、国だけでなく、隣に住んでいる人などと触れ合って、気づきがあることが交流なのかなと改めて思いました。交流っていいなと思いました。



### ご意見・アドバイスを受けての子ども委員の発言

- ・耳の聞こえない人との交流のお話を聞いて、そういう人たちとの交流で知ることができることもあるんだと感じたので、やってみようかなと思った。

### 交流グループに対するご意見・アドバイス

- ・あとは世代間の交流、異文化交流と言いますか、自分の世界とは違うものとの交流などいろいろあると思います。



### 思いやりグループの説明

#### ①活動テーマとして選んだ理由

いじめが増える中で、だんだん思いやりの気持ちが薄くなっているため、思いやりの気持ちを再確認するために、このテーマを選んだ。

#### ②これまでの活動内容

「豊かで健やかに育つ権利」に基づき、紙しばいや絵本、ゲームなどを通して、保育園の子どもたちに思いやりについて知ってもらおうと思い、大野保育園を訪問してきた。保育園では、思いやりに関する読み聞かせや〇×クイズなどの活動を行ってきた。

#### ③現時点での提案内容

学校の先生たちに対して、小さな子どもたちと触れ合う機会を増やしてほしいと思っている。



## 思いやりグループに対するご意見・アドバイス

- ・キャリア教育ということで、現在、学校ではいろんな人と触れ合う、いろんな職業と触れ合うことで、子どもたちはどうすればいいのか、そういう機会にしています。“思いやり”というのは、子どもたちと接すること、異年齢、お年寄りなど、いろんな世代の人たち、また、さきほどの外国人に対する日本人の思いやりというのがありましたけれども、そういうことも含めてこれからも活動していただければと思います。とてもいい活動だと思いますので、頑張ってください。



- ・3年前に子ども委員が作った「子ども宣言文」は、“思いやり”がキーワードになっています。子どもの権利条例のいくつかの条文にもつながる大事なフレーズだと思います。

## 街グループの説明

### ①活動テーマとして選んだ理由

青森市のことを自分たちで調べて、青森市に対する理解を深めて、自分たちの手で青森を変えていくことで活性化されたり、観光客が増えていくことなどを期待して、このテーマを選んでいる。自分たちの手で青森市を変えていきたいという強い思いのもとでこの活動を進めてきている。



### ②これまでの活動内容

「街」といってもたくさんあるので、大きく2つにわけて、市民体育館や市民プールなどの「体育施設編」と、新町や駅付近の商店街に関する「街活性化編」の2つのテーマにわけた活動をしてきた。現在は、活動内容をレポートにまとめたり、パワーポイントも活用して発表したいと考えている。

### ③現時点での提案内容

鹿内市長や「街」というテーマに関係する職員の方に対して提案をしていきたいと考えている。

具体的な内容として、「体育施設編」では、市民体育館・市民プールの駐車場が狭いので、広くして送迎などをスムーズにできるようにすること、また、施設の情報提供を活発化することによって、小中学生でも手軽に利用できるようにすること、これは、青森の小中学生の肥満率が全国1位であることや、平均寿命がワースト1であることなどから、活発に運動ができるようにして、そうすれば健康に対する意識も高まるのではないかと考えている。

「街活性化編」では、商店を営む方やお客さんの高齢化により全体的に衰退の傾向にあるので、例えば使われていないシャッターを逆に利用して、りんご畑の絵を描くこと、その絵を描く人も市内で頑張っている若手のアーティストやイラストを描きたい人、奈良美智さんな

どの有名な画家に依頼するという案もある。ほかにも、青森市はりんごのイメージが強いので、りんごの木を植えるという意見や、遠くから商店街に来るときはどうしても車を使うことが多いので、駅前に無料で使える駐車場を整備する、そうすることで家族連れでも手軽に商店街に来ることができるのではないか、という意見もある。

#### 街グループに対するご意見・アドバイス

- ・肥満率のことや短命県のことなどを引き合いに出して、その発想力がおもしろいと感じました。街の活性化については、そのことが子どもの権利とどうつながっていくのかをもう少しわかりやすく提案できたらいいのかなと思いました。

#### ご意見・アドバイスを受けての子ども委員の発言

- ・このテーマでは、「街活性化編」と「体育施設編」に共通して、子どもの権利条例の「豊かで健やかに育つ権利」に基づいて考えている。例えば、運動施設で子どもたちの運動量が増えることが、活発に健やかに生きることに繋がると考えている。



#### 街グループに対するご意見・アドバイス

- ・街の中で、子どもの権利についてどれくらい関心を持っているのか、また、子どもの権利の日イベントについて、可能なのであれば、街中でのイベント周知というアクションも入れてもらえればと思いました。
- ・直接、子どもの権利とは関係ないかもしれませんが、市民プールは70歳になると無料で利用できるのですが、利用しているほとんどがご年配の方です。また、老朽化のために天井が落ちてきていることや、シャワーが熱くないことなどの問題点もあります。ぜひ、子どもの側からどんどん意見を言ってもらえればと思います。
- ・「子どもにやさしいまちづくり」というのが条例につながることで、ぜひ具体的な提案で市長にぶつけてみてください。

#### 環境グループの説明

##### ①活動テーマとして選んだ理由

春になって雪が解けると、バス停のまわりにタバコの吸い殻やごみが落ちていて気になったこと、通学路に落ちていたごみを見て、青森市のごみ事情を知りたくなったこと、青森市の豊かな自然を肌で感じ取ってもらいたいこと、ポイ捨てやごみなどで自然を汚したり破壊したりしないでほしいということでこのテーマを選んだ。



## ②これまでの活動内容

アスパム周辺でごみ拾いをしたが、このとき1番多かったのがタバコの吸い殻だった。また、市役所のごみを担当する職員に、青森のごみ事情について聞いたが、青森市はリサイクル率が低いということを知った。これらを踏まえ、タバコのポイ捨てをやめさせるポスターを作ったり、ごみに関するクイズを作った。



## ③現時点での提案内容

市長と市民、青森市全体に対しての提案として、通学路やバス停などでのポイ捨て対策や、「タバコのポイ捨て禁止条例」を作ればいいのではないかと、また、携帯灰皿を持つよう呼びかけたり、青森市のごみの現状について、青森市民に対し、自分たちに何ができるのかを考えてもらうということを伝えたいと思っている。

## 環境グループに対するご意見・アドバイス

- ・町内会で清掃活動や除雪活動、各種リサイクルなどをやっていると思いますが、そういうものとの連携を少し考えてもらえれば、直接地域の人たちの活動につながると思います。
- ・環境の1つに「社会環境」というものもあります。子どもにとって何かマイナスになるような社会がないかなということを考える、ということも環境の視点かなと思います。
- ・その「社会環境」の中には、人、「人的環境」というものもあります。思いやりにあふれている人が自分の隣にいたら、自分にも影響があるだろうし、逆にそうでない人たちがまわりにいたら、違った色に染まっていくという「人的環境」というものもあるのかなと感じました。



以上が、“興味テーマ”に対する児童福祉専門分科会委員の皆さんからのご意見でした。

子どもたちはこのたくさんの意見を参考にして、現時点で考えている提案内容をさらに膨らませて、イベント時に発表するための準備を進めていくこととしています。

続いて、子どもたちがイベントのときにやりたいこととして考えた「子どもの権利に関する劇を交えた活動」について、

### ①この活動をする事とした理由

### ②現時点でのイメージ

を説明してもらい、それに対し、児童福祉専門分科会の委員の皆さんからご意見・アドバイスをいただきました。

## 子ども委員（企画運営チーム）の説明

### ①この活動をする事とした理由

子どもの権利を知っている人が少ない中で、劇で具体例を出すことで、わかりやすく、そして、（イベントに）来ていただいた方に楽しんでいただけたらと思ったからである。

### ②現時点でのイメージ

まず、子ども委員が子どもの権利条例に定めている子どもの権利に関する劇をお見せして、それに対して、来ていただいた方と意見交換や討論会をすることを考えている。

劇の流れとしては、劇に出てくる子どもの権利について説明してから、例えば学校をテーマとしたもの、「教室編」や「部活編」、「授業編」などの劇を1つ1、2分で発表することを考えている。テーマについては、来ていただく方が対象になるようなものを3つ程度用意する予定にしている。なお、この3つのテーマを大きなテーマとして、その中に小テーマを4つずつ用意して、計12個のテーマで劇ができればと考えている。



## 子どもの権利に関する劇を交えた活動に対するご意見・アドバイス

・3つの大きなテーマで、3つずつ、4つずつの小テーマということでしたが、すごく量が多くなるとは思います。時間的にはどのくらいがあって、どれに絞って話をしていきたいのか、ということと考えたら、10以上という数をやったら伝えたいことも深まらないとを考えます。

・1つのテーマをもう少し長くやって、内容を深くするというやり方もあるのかなと考えます。多すぎると、その都度その都度討論を入れていくということであれば、どんどん前にやったこと（テーマ）が忘れられていくのかなと思います。見るほうも何かこう忙しくなってしまうのかなと感じました。

・例えば、家庭の中でも、子どもにもプライバシーはあるよ、とか、兄弟との差別のこととか、これらをまとめてやれば、時間的にも調整はきくかもしれませんが、2人の委員から出された意見も考えてもらえればと思います。

以前、子どもの権利に関する学習会（第2回会議）で、権利擁護委員の小林先生がやっていた「ジャイアンとのび太」のシナリオで出てきたようなストーリーが出てくるようなイメージでしょうか。



続いて、イベントに向けて作成する子どもの権利を普及啓発するためのポスターなどの作品について、現時点で考えている作品の形態や内容などについて説明してもらい、それに対し、児童福祉専門分科会の委員の皆さんからご意見・アドバイスをいただきました。

#### **子ども委員（作品作成チーム）の説明**

現時点では、ポスター、チラシ、新聞の作成を考えている。内容としては、大人だけでなく、子ども本人に「子どもの権利とは何なのか」を知ってもらうようなものを考えている。私のまわりの友達に聞いたことだが、「子どもの権利条約」のことは、名前だけは知っていると言われていたが、青森市に「子どもの権利条例」があることについては誰も知っている人がいなかったのので、子どもたちに条例のことを知ってほしいと思っている。

ポスターやチラシについては、子どもの権利の中からいくつかピックアップして掲載したいと考えている。新聞については、毎月発行みたいな疑問があるが、イベントに向けた特別号として作成すればいいと考えている。



#### **子どもの権利を普及啓発するための作品に対するご意見・アドバイス**

- ・今の意見のほか、マスコミ（テレビ、ラジオなど）を通じたお知らせもあると思います。マスコミは、新しい企画についてはウェルカムと言ってくれるところもあるので、事務局とも相談しながら、もし進めていけるのであればと思います。
- 今の時代は、紙媒体だけではなく、例えば子ども会議のサイトがあって、その中で情報発信していくという方法もあるかと思います。

以上、児童福祉専門分科会委員の皆さんから、さまざま貴重なご意見、アドバイスをいただきました。今後、イベントに向けて、企画運営チーム、作品作成チームそれぞれが準備を進めていくうえでの参考にしていくこととしています。

最後に、児童福祉専門分科会会長から、次のお言葉をいただきました。

私たち分科会は、今回、皆さんの考えていることに対して意見を出すという関わり方をしました。

青森市の子どもの権利条例は東北で3番目にできた条例ですが、おそらく先行して条例を作った自治体では、子どもの権利に関するイベントはやっていないはずですので、東北初の子どもの権利に関するイベントになると思いますので、ぜひ皆さんの力で素晴らしいものを実現してほしいと思います。



以上で午前中の合同会議は終了となりました。

ここで、環境グループを除いた3グループの子どもたちは、午後の活動に備え、お昼休憩を取りました。

午後は、“興味テーマ”のまとめを行うため、交流、思いやり、街の3グループが活動しました。

### 交流グループ「Team Commu<sup>2</sup>」

午前中の合同会議で説明した、現時点で考えている提案内容を「提案書」としてまとめ、それをイベントのときに参加してくれた方々に配布し、それを見てもらいながら提案を聞いてもらうため、この午後の時間帯では、みんなで話し合いをしながら内容をまとめました。あとは「提案書」をパソコンできちんとかたちにする必要があります。



### 思いやりグループ「Team 希望ガールズ」

前回、1人しか参加できなかったガールズが、今回3人プラスサポーターが参加できたこともあり、これまでの活動や提案内容を模造紙にまとめる作業がスムーズに進み、ほぼ完成しました。

あとは、今回欠席した1人に、イベント当日、発表をしてもらうこと、また、その読み原稿を考えてもらうことを話し合いました。



### 街グループ「マーチハンターズ」

前回の活動のときに、事務局からハンターズの子どもたちに、『元気な街を、創る。』を合言葉に、今年5月に昭和通りに高校生カフェをオープンした『あおもり学生プロジェクト クリエイト』という団体があって、ここでは高校生が中心になって地域活性化に向けた様々な活動を展開している。」という話をしたところ、クリエイトの人に1度話を聞いてみたい、という意見が出ていました。事務局でクリエイトの方に相談したところ、快諾していただき、この午後の時間帯に高校生カフェにおじゃまさせていただき、クリエイトの方々とハンターズとの意見交換が実現しました。



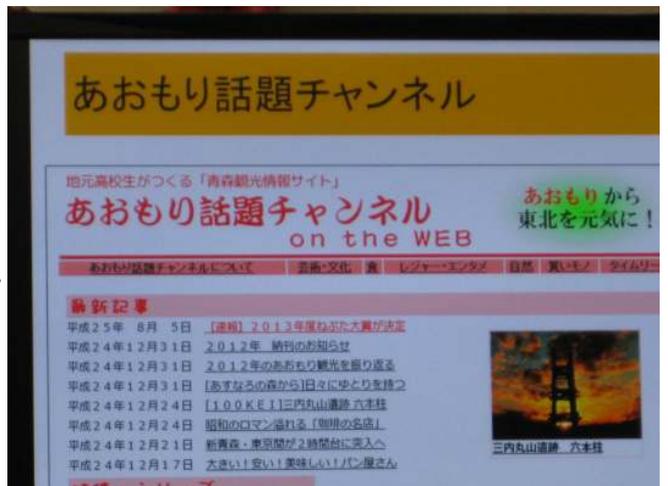
実は、クリエイトには、かつてこの子ども会議（以前は“こども委員会”と呼んでいました）に子ども委員として参加をしていた人が所属していることもあり、今回の意見交換の快諾をいただくことができました。

クリエイトでは、こちらからのお願いにも関わらず、団体活動の内容などについて、パワーポイントを使いながら、わかりやすくていねいに説明していただきました。



### クリエイトからの説明概要

- ・クリエイトが考える「まちづくり」とは、「まち」をより良い状態にもっていくことです。
- ・「まちづくり」では、美術館を建てる、公園を整備する、街灯をつくるなどの「ハード面」とイベントを行う、ルールをつくる、パトロールを行うなどの「ソフト面」があると考えています。
- ・クリエイトの活動を進めていくための資金は、高校生カフェの収益や様々な事業展開における助成金、委託金、市民の方からの寄付などによります。
- ・高校生カフェは、地元（昭和通り）の商店街に密接に関わった運営方針のもと、商店街全体で育てるという意識醸成を図っています。例えば、接客指導を商店街の小売店にお願いしたり、コーヒーの淹れ方も商店街のコーヒー屋さんから学んできました。
- ・地元高校生がつくる青森観光情報サイト「あおり話題チャンネル」を展開しています。このサイトは、取材からアポ取り、記事作成、校正のすべてを高校生が担っています。
- ・これまでの活動としては、2010年12月に東北新幹線新青森駅開業をもっと盛り上げようと「高校生がつくる東北新幹線開業前夜祭」を開催したり、商店街を中心にしたミニFM放送を行ってきたほか、商店街との連携により、青森市中心商店街のメインストリートを歩行者天国にしてのイベント「AOMORI春フェスティバル」の司会協力などを行ってきました。
- ・商店街との連携により、高校生が地域を知るきっかけになるのではと考えていること、また商店街で若者を育てることにつながるのではないかと考えています。
- ・クリエイトに参加したメンバーは、クリエイトでの活動を通じて発見した「まちづくり」に関する課題を解決すべく、様々な大学・職場で研究を続けています。
- ・クリエイトは、2014年4月に5周年を迎えます。その際はNPO法人化を予定していて、地域を元気にする人材を育成するほか、官民との連携を強化しつつも、あくまでも高校生主体の活動を継続していくことにしています。



クリエイトからの説明が一通り終わったあとは、意見交換も含め、フリートークのかたちで、さまざまな話し合いがされました。

(以下、◆がハンターズ、○がクリエイトの発言です。)

◆新町周辺の商店街は、お店の方もお客さんも高齢化が進んでいて、衰退していると感じる。シャッターが閉まっている風景は寂しさを感じる。そこで、使われていないお店のシャッターに絵を描くこと、その絵を描くのも市内の若手アーティストなどにやってもらえばいいのでは、などを考えているが、どう思うか。



○高校生カフェがある「昭和通り商店街」は、約50店舗のうち、現在空き店舗になっているところは2箇所しかありません。

○「新町商店街」は、約100店舗のうち、現在空き店舗になっているところは7箇所しかありません。

○これらを踏まえると、実は空き店舗は少ない現状にあります。

○皆さんが取材した「ニコニコ通り商店街」や「夜店通り商店街」は、現在空き店舗が多いと感じます。

○商店街の方々は、イベントをやってたくさんの人に来てもらおうとか、いろいろなことをして頑張っています。また、市役所も、空き店舗を減らすための施策として、空き店舗を活用する人に補助金を出したりしています。

○シャッターに絵を描くというのは、とてもおもしろい発想だと感じました。シャッターも商店街の1部だ、という考えになるだろうから、おもしろいと思いました。

○県外でも、空き地にコンテナを置いてカフェを開いたり、そのコンテナにデザイナーの方が絵を描いたりしているところもあります。

◆私たちは「子どもの権利条例」を普及啓発する役目もある。学校ではそんなに深く学ぶこともないので子どもの権利というものはなかなか広まらない。そこで、例えばこちらのカフェで子どもの権利に関するアンケートを行うことは可能か。



○私も子ども委員時代、「子ども宣言文」を作るまでの過程に携わったことがあるので、それは全然大丈夫です。

○「街活性化」というテーマでいけば、例えば浜田地区のイトーヨーカドーやジャスコ方面をもっと活性化させればいいのではないかと、という考え方もあるのかなと思うんですが、あえて新町にスポットをあてたのはなぜですか。

◆このテーマで話し合いを始めたときに、観光客をもっと増やしたい、という考えもあって駅前にある商店街が活性化すれば、遠くからも人が来てくれるんじゃないかと考えた。

○例えば、さきほどの浜田地区をもっと便利にさせて盛り上げていったほうが観光客が来るんじゃないかという考えもあると思いますが、どうですか。

◆新青森駅前も何もないので、例えば新町をそのまま新青森駅前とか、それこそ浜田地区に持ってくるのかはだめか。

◆イトーヨーカドーなどは、青森以外にもほかにもあるけれど、商店街は青森の良さがわかるみたいなどころがある。シャッターに絵を描くという発想も、「あおもり！」というのがほしいと感じている。



○今の高校生が、放課後にイトーヨーカドーのフードコートに行ってお茶を飲む、というのはすごい自然なことで、何も悪いことはないんだけど、将来、県外に出て故郷あおもりを想うときや、県外の人に「青森ってどういうところ？」って聞かれたときに、イトーヨーカドーしか思い浮かばないのはとても寂しいと思うんですね。

○このクリエイティブの活動では、高校生に地元の商店街のことを知ってもらい、そしていろいろな活動を通してさらに地元を感じてもらい、そうすることで「青森ってどんなところ？」と聞かれたときに、地元青森はこんなところ、と言えるようになるのかなと思っています。自分の口からそう言えることがとても大事なのかなと思っています。

○では、商店街に人を戻すためには、どうすればいいと思いますか。

◆商店街は歩いて移動するところで、ご年配の方はバスなどを利用して来られると思うが、家族連れや若い人は、車や自転車で来ることが多いと思う。新町周辺には駐車場がたくさんあると思うが、使いづらかったりお金がかかったりするるので、例えば商店街専用駐車場などを作ったりすると、少しは来やすくなるのかなと思っている。



○ジャスコは800台の駐車が可能です。それに対し、新町商店街にあるたくさんの駐車場すべてで、約3,000台の車が駐車できるようになっています。「新町には駐車場がない。」みたいな話をよく聞きますが、実はこれだけの駐車が可能になっているんです。

○ただ、やはりネックになっているのは「有料」であることだと思います。これには、浜田地区と新町で決定的に違う「土地の値段（地価）」が関係しています。土地は、買うときにお金を払って終わりじゃなく、税金も取られます。固定資産税というものです。

○浜田地区は最近できたのもあって、さほど土地の値段は高くないですが、新町は青森県内で1番値段が高いんです。それもあって、本音では駐車場を無料にしたいところなんです、ちょっとできないんです。

○あと、金額とかの話で比較をされると、新町はかなり厳しいところがあります。イトーヨーカドーやイオンでは、全国で一発発注するので、商品の値段を安く抑えたりすることができるけれども、商店街では1店舗1店舗で仕入れをしなければならないので値段が高くなってしまいます。

○では、商店街がそういった郊外の店舗と勝負していくためには、どうしたらいいと思いますか。

◆浜田地区には、全国どこにでもある店舗があり、新聞チラシでもよく見たりするけど、そこにしかない例えばおしゃれなカフェとかあって、それが雑誌に掲載されたりすれば、人が来るのかなと思った。

○商店街では、その店舗の「個性」を出していくことが大事だと考えます。それが今後、商店街が生き残っていくためのポイントになると考えます。

○現在の商店街だと、テナント料が高い割に集客が見込めないの、全国展開している店を商店街に呼ぶことはかなり厳しい状況です。

○それを逆手にとって、1店舗1店舗が「個性」を出していく、全国展開に対抗できるのは、全国にここしかない店舗を作ること、この商店街に行けば何かがある、というような商店街にしていくことが生き残っていく道だと考えます。

○そういうこともあって、ここに高校生カフェを出しています。このカフェはテレビ番組や新聞で紹介されたりしているので、県外からのお客さんも来たりします。

○今まで郊外のショッピングセンターに行っていた人の中に、「あ、高校生カフェってできたから行ってみよう。」という人がいて、じゃ、ついでに新町をブラブラしていくか、というきっかけになれば、と考えています。

○さきほど、商店街を活性化していくために、市役所で補助金を出しているという話をしました。また、国にも補助金制度があります。なぜ、こんなに商店街のための制度、商店街を守っていくための制度があると思いますか。

○おそらく、「何でそんなに商店街を守っていく必要があるの?」といった疑問を持つ人がいると思うんですが、それでも商店街を守っていかなければならない理由は何だと思えますか。

○その理由は大きく2つあると考えます。

1つは、商店街は昔から交流が生まれる場、地域のコミュニティとしての役割があります。お店の人とお客さんがきちんと顔を見て取引をしたり、世間話をしたり、お客さん同士が交流を持ったりと、地域のコミュニティづくりとして商店街を位置づける、というのがあげられます。



- もう1つは、商店街は若者にとってのチャレンジの場、これから何かのお店を出そうと考えている若者にとってのチャンスであるということです。
- いきなり郊外のショッピングセンターに店を構えようとしても無理だろうし、商店街じゃないところにお店を出しても、ちゃんとお客さんが来てくれるのかはわからない。
- それが商店街であれば、それなりに人が来るし、そこをステップにしていくための場として、商店街は必要なんだろうなと考えています。



商店街に関するさまざまな現状、商店街に対する熱意が伝わってくる、本当に貴重なお話をたくさん聞くことができた時間でした。

そして最後に、クリエイトからこんなお話がありました。

皆さんはこれから「街」のことについて提案していくことになると思うんですけども、提案までは誰でもできます。

皆さんには、提案して終わりではなく、できればそれを“実行”してほしいと考える。

提案だけして、それをあとはお任せにしてしまうのは、ある意味無責任ともいえます。

実際に行動にうつすことは難しいことなんですが、それでも結果はあとからついてくるものなので、ぜひ“実行”してください。



意見交換終了後、クリエイトの方々と記念撮影をし、ハンターズ一同は高校生カフェを後にしました。その後、総合福祉センターに戻り、今日の意見交換の内容も織り交ぜながら、「街」に関する提案内容を資料形式にまとめていました。

今回の意見交換にご協力いただいた久保田さんをはじめとするクリエイトの方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後、ますますのご活躍をお祈りしております。